

NEWS BRIEFING

風が吹けば……

Wind-blown ice

2010年3月18日号 Vol. 464 (328)



ISTOCKPHOTO

風のパターンが北極海の氷の量を変動させているという研究成果が発表された。風は、北極海に広がる氷の最小面積の年次変動の約半分と、過去30年間にみられた予想外に急速な海氷減少の約3分の1に関与しているという。

海洋研究開発機構（横浜）のおぎまさよの研究チームは、公表されている1979年から2009年までの夏と冬の風のデータと、9月の海氷の広がりののデータを照らし合わせた。その結果、夏に

ボーフォート海の上空で吹く高気圧性（時計回り）の風など、ある種の異常な風が海氷の減少と相関していることがわかった。

研究チームによれば、そうした風で海氷がグリーンランド東側のフラム海峡から押し出され、北極海の氷を減少させている可能性があるという。また、こうした特別なパターンの風が吹く傾向が強まっていることも明らかになった。

（翻訳：小林盛方）